

私は聖書を読み、先生のお話を聞いているときにはまったくの受け身でした。よくわからなけれどもひたすら聞くというのをずっと続けてきました。

おそらく礼拝に出席していても、牧師の言葉をただ聞くだけということは何年も続けておられる方があると思います。でも自分から踏みこむということをしない限り、信仰の世界に入ることはなかなかできません。なかなか踏みこめないというのが人間の弱さなのですが……

しかし、ずっと叩きつづけておられる神様に対して、どこかで決断し、ドアを開けることが必要です。神様はそのとき、それにこたえて踏みこんでくださるのです。

受け身でいることも大切ですが、どこかで決断ができれば素晴らしいと思います。

見て、聞いて、知る

初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じつと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことはについて、——このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあつて、私たちに現わされた永遠のいのちです。——私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

(ヨハネの手紙第一、一章1-3節)

もう十年以上前のことになりましたが、叔父が甲状腺の腫瘍を患いまして、私が紹介した病院に入院をいたしました。結局二年ほどして亡くなったのですが、入院中、叔母がずっと付

き添っていました。

手術のあと三日くらいたってからお見舞いに行くと、叔母は「いい病院を紹介してくれた。お医者さんも看護婦さんもよく部屋を訪問してくれる」と言って感謝してくれました。それはよかったと思つて、術後の経過もまずまずで安心していたのですが、それから一週間ほどたつて行つてみると、叔母の様子が少し変わっているのです。

叔母は私に「この病院は本当に良い病院なんだろうか」と言いました。

「まあまあ良い病院だと思う。だから紹介したんだ」と言いますと、叔母はこう言いました。「初めは看護婦さんがしょっちゅう来てくれてとてもうれしかったけれども、最近よく見ていると、点滴のスピードをチェックしに来ただけだということがわかった。

入つて来るなり、患者の顔も見ずにすぐに点滴の瓶を見る。そしてうまく落ちていれば、何も声をかけずに出て行つてしまふ。この頃ずっとそういうことのくり返して、忙しいことはよくわかるけれども、とにかく部屋に入つて来たら、まず点滴の瓶を見るのではなくて、患者の顔を見るなり、声をかけるなりしてほしい」

さすがにナースセンターまで「部屋に入ったら、まず患者の顔を見てください」と訴えに行くことまではしませんでしたけれども、叔母の訴えを聞いて、忙しい現代医療の問題点を見たような気がしました。

まず患者さんの顔を見て、訴えを聞いて、できれば手で触れて脈をとる。これは当たり前のことだと思ひます。脈をとるといふ身体的な接触は非常に重要です。誰かが触れてくれるという感覚が、患者さんに安らかな気持ちを与えるのです。

人間にはさまざまな感覚がありますが、そのなかで視覚と聴覚と触覚の三つは人間生活の基本だと言われています。見て、聞いて、触れることが大切なのです。

私たちは日頃ごく当たり前に患者さんの部屋に入り、患者さんをまず見て、聞いて、触れるということをしていると思ひつていますが、忙しいときにはそのうちのどれかを省略してしまつていふことがあるのではないかと思ひます。

ある講演会で「看護というのは手と目ですものだ」と聞いたことがあります。たしかに「看」という字は「手」と「目」という字が組み合わさつてできています。手で触れるといふこと、目でしっかり見るといふこと、それが大切だと思ひます。

冒頭の御言葉にも三つの感覚「見る、聞く、触れる」が出てきます。ここにはイエス様についての証言の確かさといふことが言われていると思ひます。ゆるぎない確信に立つた言葉です。

けれども福音書には、信仰の前提としての見る、触れることを否定的に書いている箇

所もあります。

弟子たちは復活されたイエス様について、まずその噂を聞き、次にそのお姿を見て、そして実際に釘の痕がある手に触れました。そして、それをおしてイエス様が復活されたということを信じたのです。

これに対してイエス様は、もう一歩進んで、見ることに触れることを超えた信仰ということをお教へおられます。

「私は実際に見て、触れないと信じることはできない」と言った弟子に対して、イエス様は非常に意味深いことをおっしゃいました。

「見ずに信じる者は幸いです」(ヨハネの福音書20章29節)

私たちは、聞くだけではどうしても信じることができない、見ないと信じられない、触れないと信じられないという弱さをもっています。けれども神様は私たちに、聞くだけで信じるという能力を与えておられるのではないかと思えます。

神様を見ることは当然できません。触れることもできません。しかし神様の言葉に聞くということはできます。聞くという行為のなかから信じるという霊的な感覚、見ないで信じる

力が生まれてくるのではないのでしょうか。私たちはその力を確かに神様から授かっています。現に世界中のたくさんの方が、神様を見ないで信じています。この事実は非常に重大ではないかと思えます。